

先輩から⑫「指導の工夫 実践例」

本刊「肢病専の手引き(第9集)」発行のために寄せられた「先輩から」の指導の工夫例を、以下に紹介します。普段の指導や合理的配慮を検討する際などの参考にしてください。

○指導の工夫の実践例

1 小学校・特別支援学級の例

(1) 教育内容や方法に関すること

- ・机上にゴム製のマットを敷いて、書字のときにプリントやノートが滑りにくいようにしている。また、全面に磁石の付いた下敷きと定規を使用し、弱い力でも定規をまっすぐに押さえられるようにしている。
- ・給食のおぼんは、通常のおぼんより一回り大きいサイズで滑りにくい素材のものを用意している。配膳の際におぼんが少し傾いても食器が滑ってこぼれないようになっている。
- ・靴の履き替えを行うときは、昇降口に児童が専用に使える椅子を用意しておくことで、慌てないで靴の履き替えができるようにしている。
- ・体温調整の難しい児童が学習に集中できるように、エアコンやヒーターの他に、電気ポットでお湯を沸かして湯たんぽも使用できるように準備している。
- ・ホワイトボード(移動式)を活用し、板書とノート板書を書き分けることで、まひがあってもゆっくりノートを取る児童も安心して学習できるようにしている。
- ・体調管理のために、個別指導は休息の時間を確保するようにしている。
- ・児童の興味関心を高めながら形や空間の認知機能や手指の運動機能の向上を図るため、紙粘土や編み物で小物作りに取り組んでいる。
- ・栽培活動では、車椅子で作業ができるようにバケツ稲やプランターの高さを変えたり、野菜収穫のために畑にシートを敷いたりしている。
- ・車椅子での移動や視力面に配慮して、教室の座席を前方の出入口付近に配置している。
- ・机は、高さが調整できるキャスター付きのものを使用している。
- ・指先の動きをより円滑にするため、日常生活の中で、給食のパン袋や牛乳箱の片付け、白衣畳み、プリントのパンチ穴開けなどを段階的・継続的に指導している。
- ・通常の児童に比べて身体が小さいため、学校にある机と椅子のサイズが合わなかった。仙南保健所の地域リハビリテーション事業を活用して、作業療法士・理学療法士に来校していただき、姿勢保持のためのクッション、背もたれのクッション、足台などについて指導をいただいた。
- ・運動制限があるため、体育では無理をしないように配慮している。また、休み時間など、大勢が様々な動きをする場面では危険が伴うため、休み時間を多少ずらして外遊びの時間を設けている。
- ・移動や活動に制約があることや移動しやすさを確保するために、協力学級の担任と事前の打ち合わせをしている。また、協力学級の児童にできないところを手伝ってもらったりなど、協力をしてもらえそうな声掛けをしている。
- ・社会性を育てるため、毎朝、職員室に行き、なるべく多くの先生方と挨拶をするようにしている。

- ・他者とのかかわり方を学べるように、他の特別支援学級との合同学習の場を、毎日1時間設けている。
- ・緊張を和らげるため、児童の好む曲を流して、活動に取り組ませている。
- ・姿勢が崩れないよう、字を書くときには下に滑り止めシートを敷いて学習している。
- ・歩行練習をする際は、歩幅が広くなりすぎないようにするため、子供と向かい合わせになって手をつなぎ、教師の歩幅に合わせて歩かせるようにしている。
- ・自分の体に意識を向けるため、体の調子を毎日記録させている。
- ・日常の健康観察のチェック表を作成し、体調を把握するようにしている。
- ・緊急時に医療機関への搬送が迅速かつ安全にできるようマニュアルを作成し、対応を整備している。

(2) 施設や設備に関すること

- ・教室の後方にじゅうたんを敷き、布団や毛布を用意して、体調が崩れたときにすぐに横になり休めるようにしている。
- ・下駄箱の場所を学年が上がるたびに工夫している。下校時刻が重ならない学年のところに設置し、本人が慌てなくてよいようにしている。
- ・医療的ケアが必要なため、プライバシーの守られる部屋を確保し、訪問看護師による医療的ケアを行っている。
- ・教室に2畳のスペースを設置して、リラックスしながら身体を動かしたり、着替えたりするときに使用している。
- ・教室内にシャワー、手洗い場、トイレなどを設置した。
- ・自主的な移動ができるよう、スロープやエレベーターを設置した。
- ・身体に排せつの問題があるため、シャワー室と洋式トイレを増設した。

2 中学校・特別支援学級の例

(1) 教育内容や方法に関すること

- ・上肢に障害があるため、書字に時間がかかり、小さい字を書くのも苦手である。そこで、授業内に板書が終わらない時は、デジタルカメラで黒板を撮影し、後でノートに書くようにしている。また、定期考査の解答用紙をA4からA3に拡大し、書きやすいようにしている。
- ・買い物学習の際には、硬貨を扱いやすくするためにコイントレーを準備している。財布からトレイに硬貨を出し、所持金を数えたり支払いをしたりするようにしている。
- ・作業ではさみを使う際には、教員が紙を支え、生徒は両手ではさみを扱うようにしている。
- ・体育の準備運動でウォーキングをする際には、歩行距離を生徒自身に決めさせ、無理をすることがないように声掛けをしている。
- ・車椅子の生徒が在籍しているため、エレベーターや広いトイレを使用している。
- ・手足が動かなく、口を使って字を書いたり絵を描いたりするので、常に除菌ウェットシート等を準備し、衛生面に気を配っている。
- ・斜視の生徒や口で書く生徒のために、文字を見たり書いたりしやすいよう、手作りの譜面台のような教具を使用させている。
- ・移動支援や学習時の活動支援として、学級担任以外に教員補助が付き添って支援に当たっている。座席の向きを変えたり道具を用意したりする支援を行っている。
- ・座位を安定させるため、両手すり付きの椅子を用意した。

- ・年度途中の入級であったため、集団生活に不安を感じ、初めは教師と生徒、1対1で授業を行った。
- ・疲労を感じた場合などは、クッションを用いて楽な姿勢で学習する工夫をしている。
- ・疲労を感じたときや眠気を催したときは、教室に設置されているベッドに横になるなどして休養を取りながら授業を行っている。
- ・体力面を考慮した登下校時刻（9：30登校，13：00下校）を設定している。
- ・体力面や安全面を考慮し、移動用車椅子を設置している。
- ・手の力が弱く、ノートを取るのに時間がかかるため、デジカメ及びタブレットPCで板書の見直しができるようにしている。
- ・トイレのそばにいつも付き添っていると落ち着かないため、多目的トイレ内に呼び鈴を設置している。
- ・姿勢を正しく保てるよう背中にクッションを当てて学習している。
- ・衣服の着脱、授業の準備・後片付けなどを自分で行えるよう、余裕のある時間設定をしている。
- ・2名在籍している。協力学級で学習する際は、時間割を配慮してもらい、2名の技能教科（4教科）に担任がつけるようにしてもらっている。
- ・筋力の低下による歩行時のふらつきがあるため、学校管理下における生活で補助員が同行したりと登下校時に教員が出迎えと見送りをする体制をとっている。

(2) 施設や設備に関すること

- ・集団に入れない時の個別学習用に別室を確保している。
- ・校舎の各階に手すり付きの障害者用トイレを設置した。手すりが取り付けられたことで、歩行器で入って排せつができるようになった。
- ・体力低下による疲労に対応し、教室に休憩用のベッドを配置している。
- ・心筋梗塞に備え、個人専用AEDを設置している。
- ・心筋梗塞に備えAEDをレンタルし携行している。
- ・緊急連絡用の携帯電話を携行している。
- ・装具の取り外しのため、平らで動きやすいカーペット・たたみを設置している。

3 病弱特別支援学校の例

(1) 教育内容や方法に関すること

- ・ペンを持って字を書いたりイラストを描いたりするときに、姿勢の保持が困難、でん部の痛みがある、筆圧が弱いという実態があるため、PCやペンタブレットを使用している。
- ・仰向けのまま手元を見たいときに、書画カメラを使用してPCで見られるようにしている。
- ・主治医や看護師から情報を得て、日々の体調の変化に応じたベッドサイド学習を行っている。その際に、身体の変形や拘縮の防止のため、自立活動の中にマッサージなどを取り入れている。
- ・同級生とのかかわりを持たせるために一緒にできる活動などを考えて、機会を増やした。
- ・可動域が指先のみ生徒が、主体的な学習を行えるよう、教材をすべてデータ化してパソコン、ペンタブレットを使用している。
- ・緊張を緩和しスムーズにペンや筆を持つことができるよう、ペンや筆を握る部分にクリップを付けて活動している。

- ・車椅子での座位保持を図りながら活動に取り組めるように、腰が前に滑らないよう膝内側部分が高い座面マットや体幹傾き防止の円柱マットを作成し、使用している。
- ・仰臥位での体操で姿勢の保持が図れるよう、首・膝下や腕の部分にマットを置いて実施している。緊張が緩和され、リラックスして取り組めるようになる。
- ・缶釣りゲームや魚釣りゲームの活動を車椅子上で主体的にできるように、竿を短くしたり、マグネットの付いた手袋を作成したりしている。
- ・楽器が握れない児童生徒が主体的に活動に取り組めるように、楽器に補助具を付けるなどして鳴らせるように工夫している。
- ・「さん、はい」または「これから朝の会を始めます」などと録音したスイッチ（V O C A）を用意し、合図や挨拶の場面で活用している。司会以外の児童生徒も言葉を興味をもって聞き、始まりや終わりを意識している。
- ・アレルギー等で、指導室での学習が制限されているが、集団の一員という意識がもてるように、タブレットP Cを用いて、指導室と病棟で相互中継をしながら学習を行っている。

4 肢体不自由特別支援学校の例

(1) 教育内容や方法に関すること

- ・はさみ操作が苦手だったが、見えにくいからなのか手指の巧緻性が低いからなのか分からなかった。しかし、切る線をマジックで太くすることで、切りたいところを正しく切ることができた。それが分かったことで、実態が把握でき、いろいろな点で支援の方法を考えていくことができた。できない、分からないことが、何によってそうなっているのか丁寧に見ていくことが大切だと考えている。
- ・書字がゆっくりな子については、プリントを切ってノートに貼ることで板書を写すことにしている。
- ・子供の姿勢が崩れたときにプッシュアップを促したり、リラックスさせたりすることで安定した姿勢を意識させ、自分でそれができるように学校活動全体をとおして指導している。
- ・次の観点で、毎日、状態を観察している。子供の表情、手足の温度(冷えていないかな、熱っぽくないか)、手足に傷や発疹、赤み等がないか、姿勢(腕が車椅子から落ちていないか。体幹はまっすぐになっているか。車椅子の座り方(おしりがずれていないか)。
- ・筆やペンを握るのが難しいとき、ペンにネット(果物を包んであるような)等を巻き付けて太くし、握り具合をやわらかくした。
- ・机等、平らな面に置くと操作しにくいとき、書見台等で少し角度をつけて、本をめくったり、i P a dを操作したりしやすくした。
- ・ボールを投げるのが難しい子に、雨とい等を使って転がせるようにしたり、ひも等をつかんで引くのが難しい子にはひもの先に輪(セロテープの芯等)を付けて握りやすくした。
- ・車椅子で卓球ゲームをした際、棒の先に紙コップを付けて、床に転がっているボールを自力で拾えるようにした。
- ・視覚的に黒板が見えにくい児童のために、個別のホワイトボードを使用したり、厚みのあるウレタンボードでカードを作り持ちやすいようにしたりした。
- ・松葉杖やクラッチを使用している子がいる際は、床がぬれていると滑って転倒するおそれがあるため、床の水滴などはこまめに拭き取る。座席は、人の移動が少ない

窓際や廊下側にした。

- ・教師と一緒に道具を持つ際は、子供の手をすっかり覆ってしまわず、子供が自分で道具を持っていることが実感できるように留意している。ひじを支持するにとどめたり、はさみで切るときに紙の方を動かしてあげたりしている。
- ・障害の状態に応じたスイッチ類を活用し、ICT機器を利用している。タブレット端末のアプリで写真を撮影したり、スライドショーを操作したり、楽器を鳴らしたりするなどし、経験の拡大を図っている。
- ・指先の可動域だけで、ほとんどのパソコン操作が可能なペンタブレットを導入して学習を行っている。通常の記事表現はもちろん、ペイント等を使って直筆での書字や絵画も可能。
- ・電動車椅子でリクライニングしたまま、パソコン操作ができるように自作の学習機を用意している。また、リクライニングに合わせてパソコンを自由な高さや角度で設置できるように角度調整付きパソコンデスクを併用している。
- ・ベッドで横になって休養しながらでも、簡単なパソコン操作ができるハンディタイプのトラックボールを利用している。
- ・iPadの画面をHDMI変換ケーブルで大型モニターに映すことで、ベッドで横になってモニターを見ながら手でiPadの操作ができるようにしている。
- ・生徒は両上肢にまひがあり、左利き、細かい作業は苦手、右手の緊張が特に強く、粗大運動はできるが物をつかんだりすることは難しい。そのため、パソコンを操作する際は、トラックボールマウスを使用している。「文字入力はスクリーンキーボードを使って行う。」「ドラッグが難しいので、マウスの左ボタンを長押しすることでドラッグできるようにする。」「ダブルクリックはシングルクリックでできるようにする。」などの設定をしている。
- ・車椅子に座っていることの多い生徒の体が緊張しないように、授業中にイーゼースタンドに移乗させ、時間を決めて、立位姿勢や座位姿勢をさせるようにしている。
- ・パソコン操作をさせる際は、姿勢の保持のため、画面が生徒の目線にくるように台を置いている。
- ・作業学習の際は、時間を決めてストレッチを行い、体の緊張をほぐすようにしている。
- ・緊張による姿勢のぶれを少なくするため、肘掛け付き椅子の上と腰部分にクッションを敷いて、座面ができるだけ動かないようにしている。
- ・パソコンでの学習の際は、通常のマウスではなく、手指の操作がしやすいトラックボールを使用している。
- ・アテトーゼ型の緊張で書字が困難なため、テストの際は、パソコンで解答が入力できるようにしている。
- ・生徒が選択して活動する場面では、なるべく実物を提示して選択させるようにしている。
- ・集団活動の際に、学習場所を自分の教室にし、他の生徒等に来てもらうことで、体力的な負担を軽減した。疲れたときはベッドで休みながら他の生徒の様子を見られるようにした。
- ・お客さんを招待する「お祭り」の学習の際は、まず、自分たちが十分体験できるようにし、楽しさを実感してから取り組めるようにした。
- ・体育の指導で「ティーバッティング」を行った際は、ボール(野球用ボール、ビーチボール、バレーボールなど)や打つ道具(バット、卓球ラケット、バドミントンラ

- ケットなど)を複数用意し、自分に合った道具を自分で選択できるようにしている。
ティーの高さ、フェアゾーンの広さ、柵までの距離も個に応じて設定している。
- ・居住地校学習で交流学习をする際は、事前に自己紹介カードを届けたり、並んで体を近づけたりできる活動を取り上げたりして身近に感じられるようにした。当日の活動は事前の授業でも行い、慣れてから参加できるようにした。
 - ・作業療法士より、障害の状態や関節の可動域、効果的な教具等の専門的なアドバイスを受けながら安全に留意し、指導している。
- (2) 施設や設備に関すること
- ・医療的なケアが必要な生徒にエアコンや加湿器、空気清浄器を完備した教室で、看護のケアを受けながら学習している。